



目次

☆沼津工業高等専門学校 の 目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針

☆新年度にあたって (年度方針等)

沼津高専の教育改革	……………	学校長	柳下 福藏	… 4
一本科の学際教育を深化する専攻科改編	……………			
次の50年に向け新たな一歩へ	……………	副校長 (教務主事)	蓮 實文彦	… 4
新年度にあたって	……………	校長補佐 (学生主事)	大久保清美	… 5
新年度にあたって	……………	校長補佐 (寮務主事)	遠 藤良樹	… 6
新年度にあたって	……………	校長補佐 (専攻科長)	遠 山和之	… 6
学際教育・平成25年度方針	……………	校長補佐 (学際教育担当)	押 川達夫	… 7
新年度にあたって	……………	機械工学科長	小 林隆志	… 8
新年度にあたって	……………	電気電子工学科長	佐 藤憲史	… 8
平成25年度にあたって	……………	電子制御工学科長	川 上 誠	… 9
平成25年度を迎えて	……………	制御情報工学科長	長 谷賢治	… 10
平成25年度の初めにあたって	……………	物質工学科長	芳 野恭士	… 10
平成25年度の教養科	……………	教養科長	西 垣誠一	… 11

☆人事異動について

平成25年度人事異動	……………			… 12
平成25年度校務分掌・学級担任	……………			… 13
平成25年度学生会・クラブ・同好会顧問教員	……………			… 14
平成25年度学校医・歯科医・薬剤師・カウンセラー	……………			… 14

☆着任挨拶

分かり易く現場で役立つ授業を	……………	制御情報工学科	長 縄一智	… 15
世の期待にこたえるために	……………	制御情報工学科	横 山直幸	… 15

☆新入生から (入学にあたり)

沼津高専から夢に向かって	……………	1年4組	坂 井達成	… 16
高専入学後の私	……………	1年5組	久 保寺智哉	… 17

☆卒業生から

説明力	……………	電気工学科31期	佐 藤弘康	… 17
高専で学んだ事を振り返って	……………	電子制御工学科17期	小 池 奨	… 18

☆留学生から

初めての日本の生活	……………	物質工学科	ザマン ワイス アルキンディ ヌル	… 18
-----------	-------	-------	-------------------	------

☆寮生会活動について

学寮について	……………	物質工学科4年寮長	金 子直嗣	… 19
--------	-------	-----------	-------	------

☆私の高専時代

私の高専時代と今	……………	電子制御工学科 (機械工学科15期)	牛 丸真司	… 20
----------	-------	--------------------	-------	------

☆教育後援会から

会長就任のご挨拶	……………	教育後援会会長	鈴 木政孝	… 20
----------	-------	---------	-------	------

☆平成24年度読書感想文コンクール

平成24年度読書感想文コンクール	……………	図書館長	江 間 敏	… 21
「ダーウィンと出会った夏」を読んで	……………	1年1組 (現 機械工学科2年)	山 下美綺	… 21
「下町ロケット」を読んで	……………	1年3組 (現 制御情報工学科2年)	塚 本唯斗	… 22

☆入学に際して保護者から

沼津高専保護者の方々、よろしくお祈いします。	……………			
……………	……………	新入生保護者 (1年4組)	平 尾栄子	… 23
入学して	……………	新入生保護者 (1年5組)	鈴 木貴康	… 24

☆事務部から

平成25年度沼津高専1日体験入学のお知らせ	……………			… 24
平成25年度 (8月～3月) 行事予定表	……………			… 25

沼津工業高等専門学校の目的、教育目標、 養成すべき人材像、学生受入方針

教育理念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

目的

本高専は、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成をおこない、もって地域の文化と産業の進展に寄与することを目的とする。

教育方針

1. 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2. コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3. 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4. 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

1. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2. 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
3. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

学生受入方針

- 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
- 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

新年度にあたって (年度方針等)



沼津高専の教育改革 —本科の学際教育を 深化する専攻科改編—

学校長
柳下 福藏

昨年の創立50周年記念事業が保護者の皆様のご協力により計画通り盛大に挙行できましたことに改めて御礼申し上げます。

沼津高専は『高等専門学校教育の充実について（中央教育審議会、平成20年12月答申）』に示された下記4項目の実質化に向けて着実に改革を進めています。

- それぞれの高等専門学校が自主的・自立的改革に不断に取り組む、社会経済環境の変化に積極的に対応
- 中堅技術者の養成から、幅広い場で活躍する多様な実践的・創造的技術者の養成へ
- 多様な高等教育機関のうちの一つとして本科・専攻科の位置付けを明確に
- 産業界や地域社会との連携を強化し、ものづくり技術力の継承・発展を担いイノベーション創出に貢献する技術者等の輩出へ

沼津高専は高度化に向けて昨年度の新入生から「新教育課程—混合学級と学際教育の導入—」の適用を開始しました。1学年は学科の枠を越えた混合学級編成として全学生が専門5学科の基礎的実験・実習を全て体験し、2学年からは専門学科の学級編成になり、教養科教員も含む全教員が全2年生を2～3名ずつ受けもって各々の

研究課題を指導するミニ研究を実施し、3・4・5学年になると所属学科の専門基盤科目を基本として学際3分野（環境・エネルギー分野、医療・福祉分野、新機能材料分野）からいずれか1分野を選択して学際科目を受講します。専攻科は、本科の学際3分野の教育を深化してイノベーション創出に貢献する技術者・研究者を育成するために、総合システム工学専攻（環境エネルギー工学コース、新機能材料工学コース、医療福祉機器開発工学コース）の1専攻3コース構成に改編し、平成26年度入学生から適用を開始します。

専攻科の医療福祉機器開発工学コースには企業人を科目等履修生として受け入れ、専攻科修了生と企業の科目等履修生がファルマバレープロジェクトを推進する医療機器開発の中核人材に育成され、県東部地域の産業振興に貢献していくことになります。

産業社会のグローバル化に対応できる技術者教育を目的として、創立50周年を機に設立された「国際交流基金」が本年度から運用を開始します。学生個人への援助は小額となりますが、少しでも多くの学生が在学中に異文化体験する機会を提供しようという基金の趣旨をご理解いただき有効に活用されることを願っています。

創立50周年を機に「進化する高専」を標榜する沼津高専は、地域産業界や行政との連携を一層進展させ、人柄のよい優秀な技術者の育成はもとより、県東部に唯一の工科系国立高等教育機関として、その使命を着実に果たして所存であります。

保護者の皆様のご理解と、変わらぬご支援・ご協力をお願いして新年度のごあいさつといたします。



次の50年に向け 新たな一歩へ

副校長（教務主事）
蓮實 文彦

15年にも及ぶデフレ下にあった日本経済に、昨年末より変化の兆しが現れました。新政権が打ち出した新たな経済政策による変化は、人々に明るい予感を与えているように感じます。この経済政策の3本目の矢の成否を担うのは「新たな科学技術の創出」であろうと思われます。打ち出された「新成長戦略」は、産業の新陳代謝、人材力強化、クリーンで経済的なエネルギー需給の実現、健康長寿社会の実現、科学技術イノベーションなどです。

これらは、昨年度から本校で始まった新教育課程、つまり本科における「学際教育」の導入、「専攻科改編」と符合するものです。高専機構においても、第二期中期計

画において高専教育の「高度化」を謳っておりますが、いち早く的確に、具体的プログラムを提案し、実現に踏み出したのは、全国高専の中であって、沼津が最初であろうと思われます。6年前、柳下校長が打ち出した沼津高専改革の方向性に誤りがなかったと感じております。

昨年度から導入された新教育課程は、押川校長補佐（学際教育担当）、遠山校長補佐（専攻科長）らの献身的な努力で順調に進捗しておりますが、来年度が新教育課程導入の山場。本年度も柳下校長を中心とし、教務としても、新教育課程の円滑な移行に全面支援で対応する所存です。

一方で、残念な報告です。昨年度の留年・退学者数は、65名と一昨年の57名を上回ってしまいました。教務担当として、保護者各位にお詫び申し上げます。その内訳は、留年が36名と一昨年度より8名増加、退学は一昨年度と同数の29名でした。昨年度も、低学年への学習支援策を中心に様々な対策を打ってきました。中間段階では、その手ごたえを感じておりました。確かに、1、2年での退学数は減らすことができましたが、結果は前述の通り

でした。本校は高校とは異なり、厳格に成績を評価し、所定のレベルに達していなければ、単位が取得できません。保護者の皆様におかれましては、本校の制度へのご理解と日頃からのお子様への応援をお願い致します。今年度も、昨年同様、放課後、以下の学習支援策を行います。積極的な利用をお願い致します。

- 熱血ベテラン教員による学習支援（数学）
- 何でも科目相談室（物理実験室と学生生活支援室（メンタルヘルス対応）にて）
- 専攻科勉強部屋（専攻科生による学習支援）
教務担当として留年・退学問題に直面してみると、学



新年度にあたって

校長補佐（学生主事）
大久保 清 美

学生主事2年目になりました。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

さて学生主事の掌理事項は、一言でいえば学生の厚生補導に係ることですが、その中でも特に、事故（登下校時・課外活動中など）、メンタル・ヘルス（自傷・自殺など）、及び非違行為（いじめ・犯罪・薬物乱用など）に対する「リスク・マネジメント」に留意しなければなりません。

登下校時の交通事故防止のためには、平素から学生委員会を中心に地道な交通安全指導を繰り返し行っています。しかし原付通学者の中には相変わらず、ヘルメットのおご紐を締めていない者、サンダル履きの者など、交通安全意識の低い学生が散見されます。自転車通学生の中にも、傘さし運転、右側通行、イヤホンをしている者などがいます。交通事故はいつ起こるか分かりません。常日頃から安全運転の習慣を身につけてください。なお、プライベートで自動二輪や乗用車に乗っている学生がいますが、これについては学校としては責任を負いかねます。前年度末には乗用車で悲惨な事故が起こっています。学校が通学手段として認めていない自動二輪や乗用車に乗ることは是非を含め、交通安全について、ご家庭でよく話し合いをしていただきたいと思います。

課外活動中の事故防止のために作られている「クラブ活動における安全対策等の手引き」を今年度、6年ぶりに見直し、実情に沿うように改訂しました。各クラブ・同好会はこれを指針に、安全な課外活動を心掛けてください。

全国高専における自殺者の漸増傾向に危機感を持った高専機構本部が今年度から、「こころと体の健康調査（自殺予防のためのチェックリスト）」を年2回実施するよう指示してきました。本校ではすでに、学生生活支援室が

生諸君の能力不足より意欲の欠如に問題の源泉があるように感じます。本校としては、昨年度、OB人材にご支援を受け、キャリア教育を全学年で展開しました。しかし、残念ながら、本年度、予算処置を講じることができませんでした。本年度は、大久保学生主事を中心に、教務・学生担当一体となって、新たなキャリア教育構築に努力する所存です。これからも、意欲・志の高い学生の育成に尽力致します。保護者各位のご理解とご支援をお願い申し上げます。

同様のアンケートを実施していますので、機構の調査は年1回とします。

非違行為に関しては前年度、学生会室及び学生会管理下のコピー機から大金が盗まれる窃盗事件がありました。学生会の内部事情に詳しい者の犯行と思われませんが、犯人はまだ判明していません。対策として、今年度から学生がなるべく現金を扱わないシステムを作りました。コピー機の管理も外部委託としました。なお、学生会室から紛失した募金の一部は、前年度学生会本部役員有志がGW中などに茶摘みのアルバイトをして弁償しました。

自転車の盗難が後を絶たないため、今年度から自転車通学許可条件に二重ロックを加えました。しかし、錠を持ってはいるものの、施錠していない自転車が多く見られます。二重ロックが習慣となるよう、粘り強く指導を続けます。

前述した乗用車による重大事故の背景には、5年生の卒研発表後の打上げ企画がありました。浮かれた気分が引き起こした事故でした。今年度の始業式で全学生に再確認しましたが、たとえ成人した5年生であっても、本校在籍中（3月31日まで）は飲酒禁止です。保護者の方でもご承知おきください。

学生主事のその他の掌理事項としては、体育祭・高専祭等を含む学生会活動全般に対する支援が挙げられます。前年度の学生会は実は、望ましい自治組織へと進化しつつありました。ところが上述したように、思いもよらぬことで足をすくわれ、道半ばで頓挫してしまいました。近くで活動を見守っていた者として、がんばっていた役員諸君には同情の念を禁じえません。そういうわけで、今年度の学生会はゼロどころか、マイナスからのスタートになります。新役員の皆さんは、まずは地道な活動を積み重ねてください。先日行われたスポーツ祭（球技大会）は、大変すばらしい運営でした。

高専体育大会・ロボコン大会・高校総体・高校野球大会等の各種競技大会や演奏会等を目指す課外活動の支援も学生主事の重要な掌理事項のひとつです。その他に、1年生オリエンテーション研修や3年生スキー研修等の研修支援、各学年で行われる特別講演の開催支援、学校周辺クリーン活動等の環境保全、授業料免除・各種奨学

金等の経済支援、キャリア教育・沼津高専就職祭等も学生主事が掌理します。

キャリア教育については、平成20年度から24年度まで5年間、高専機構に「企業技術者等活用プログラム」の予算を申請し、予算化された資金を基に、企業技術者等に教育支援をいただく形で進めてきました。しかし今年度からは、もうこれ以上の予算化は望めず、自立化しなければなりません。そこでこの度、関係各位のお知恵を

拝借しながら、新たな「沼津高専キャリア教育支援プログラム」を構築しました。今年度からこのプログラムを基にキャリア教育を展開していきますが、これが持続可能なプログラムとなるように、今後さらなる改善を加えていく所存です。

最後になりましたが、国際交流委員長としては、今年度から運用が始まった国際交流基金を利用して、一人でも多くの学生が海外体験をしていくことを望んでいます。



新年度にあたって

校長補佐（寮務主事）
遠藤良樹

昨年度に引き続き寮務主事を併任いたします教養科（数学）の遠藤良樹です。4年目になります。微力ながら皆様のご協力、ご理解を得て務めてまいりますのでよろしくお願い致します。

今年度寮生558名（男子483名、女子75名）でスタートしました。内訳は第1学年211（33）名、第2学年154（23）名、第3学年97（12）名、第4学年52（4）名、第5学年44（3）名、この中にはアジアからの留学生が10名含まれています（括弧内は女子人数で内数）。

寮務関係教員は総勢16名です。主事1名、寮監1名、主事補3名、委員11名で寮運営にあたります。寮監は引き続き福木洋一先生（教養：日本史が専門）です。寮監3年目となり寮務に精通され寮生指導、寮運営に日夜精力的に活動されております。主事補は宮内先生（機械）、鈴木正樹先生（教養）、藤井先生（教養）にお願いしました。この3名の先生方は昨年度から引き続きです。委員の先生方も含め今年度も棟顧問を務めていただき寮生指導を行います。なお委員の中に2名の新任の方、長縄先生、横山先生（いずれの方も制御情報）をお迎えしました。

寮務係は引き続き岡本寮務係長と他に4名の補助の職員が学生の対応に親身になってあたっております。また田中寮監補の勤務日が毎週月、火、木の3日になり、女子寮運営に安心感が増しました。

寮生会は今年度も素晴らしい働きをみせています。そ

の寮生会の3役を紹介いたします。寮長は金子直嗣君（物質工学科4年）、副寮長は石川和磨君（電気電子工学科3年）、牧野秀紀君（電子制御工学科3年）の2人です。金子君は昨年度清峰棟長で今年度寮長に選出されました。石川君、牧野君（いずれも前年度階長）と3人で寮生会を牽引してくれています。他に本部役員23名、計26名の意欲と能力がある学生が今年の寮の中核を形成しております。

活動報告を簡単に致します。

4月：入寮式、開寮式、寮生総会、親睦会

5月：防災訓練、寮祭前夜祭、寮祭

この間に朝礼2回、木曜会（教員と寮生会との合同会議）を3回行いました。入寮式の日には寮生会の働きにより新入生の荷物搬入も無事終了しました。親睦会も無事楽しく終了しました。防災訓練は地震を想定したもので、注意情報、予知情報が発せられたという想定で訓練を行いました。天候不順のためグラウンドへの避難訓練は省略しましたが行動票への記入訓練は行いました。そして寮最大の行事、寮祭も朝方雨が少し残りましたが後半は天候に恵まれ柳下校長をはじめ多くの保護者の皆様、教職員、卒業生、近隣にお住まいの方々の来場を得まして盛況のうちに終了しました。お越しくくださった方々にお礼申し上げます。今回は52回目の寮祭です。これで寮の行事は一段落し寮生は前期中間試験に向け勉学に励む体制を整えております（このお知らせがお手元に届くころは試験も終わっております）。

寮と地域連携の一環として2009年度から始まりました長泉北中学校学習支援は引き続き今年度も実施する予定です。寮で行っているマテカ（上級生が下級生の勉強の面倒を見る）とともにこれからも続けていくことができたらと思います。

では今年度もどうぞよろしくお願い致します。



新年度にあたって

校長補佐（専攻科長）
遠山和之

昨年度に引き続き校長補佐（専攻科長）を担当させて

頂くことになりました電子制御工学科の遠山和之です。専攻科長代行に電気電子工学科 高野明夫先生を指名し、企画・運営委員に、機械工学科 永禮哲生先生（インターンシップ担当）、電子制御工学科 大庭勝久先生（学生支援室長）、制御情報工学科 鈴木康人先生（実験・演習担当）、物質工学科 藁科知之先生（専攻科研究発表会担当）、教養科 澤井洋先生（国際交流担当）の7名体制で進めていきます。本年度も「国際性豊かな技術者の育成」

という産業界からの要請に応えるべく、海外インターンシップ、国際交流プログラムへの派遣、国際会議への参加等を積極的に進めますので、よろしくお願ひします。

さて、今年度の専攻科は、1年生22名、2年生23名の計45名でスタートしております。専攻科自治会の自治会長は制御・情報システム工学専攻2年の飯谷健太君です。昨年度の専攻科修了生26名全員が10月期の学位授与申請を経て3月に学士の学位を取得して修了しております。修了生26名のうち、18名が就職で、富士通、旭化成、東京エレクトロン、セガ、東芝キャリア、コマツ、日本食品化工、セイコーエプソン等、様々な企業への就職を果たしております。大学院進学の名は、東京大学、名古屋大学、東京工業大学、奈良先端科学技術大学院大学、豊橋技術科学大学、立命館大学に進んでいます。昨年度も、名古屋大学、東京工業大学、東京医科歯科大学、奈良先端科学技術大学院大学、北陸先端科学技術大学院大学、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、山梨大学、福井大学等14の大学院の先生方が本校に直接説明にみえ、大学院の魅力をお話し頂いております。求人も年々着実に増えており、2013年度は、5月14日現在で136社から求人があります。ちなみに2012年度は98社、2011年度は68社でしたから、年々着実に沼津高専専攻科の知名度が上がり、求人が増えていることが分かります。もちろん、昨年度の就職率は一昨年度に引き続き100%でした。

本年度も富山高専主催の北アイルランド海外インター

ンシップに専攻科1年生2名の応募がありました。国際シンポジウム ISTS2013は、11月に香港のIVE Tsing Yi校で開催される予定です。企業の海外インターンシップ募集も新規企業が数社増えました。第1期(夏期)は、オーエスジー(派遣先:調整中)、荏原製作所(派遣先:アメリカ)、カネカ(派遣先:マレーシア)、リガク(派遣先:アメリカ)、ルネサスソリューションズ(派遣先:シンガポール・台湾)、日本ユニシス(派遣先:ベトナム)、富士ゼロックス(派遣先:中国)、三菱重工(派遣先:マレーシア)でいずれも3週間ほどの実習です。第2期(冬期)の募集もありますので、専攻科生と専攻科に進学する5年生に限定されますが、応募して欲しいと思います。さらにこれとは別に旭テックから海外インターンシップの募集が6月にありました。経済産業省や文部科学省は、日本経済の新たな成長に向けて「グローバル人材育成」の推進を強化しています。全国高専で20名の募集というかなり狭き門で、英語の高い能力が要求されると伺っています。また、8月17日～31日の15日間、シンガポールポリテクニクにおいて高専の学生のためにカスタマイズした短期集中型語学研修プログラムも始まりしました。企業の海外インターンシップ等一部、本校学生課が窓口となっているものもありますが、国際交流担当の澤井先生に問い合わせを頂き、積極的にこれらのプログラムに参加してコミュニケーション能力を伸ばし、国際的に活躍する技術者を目指して欲しいと思います。



学際教育・ 平成25年度方針

校長補佐(学際教育担当)
押川達夫

平成24年度入学生より導入された「混合学級と学際教育の導入」の目的は、「現行の専門教育を基盤としながらも他の専門知識を幅広く学習することにより、実社会に役立つ技術者としての人材を輩出する」ことにあります。このような背景から、平成24年度の新入生より、(1)混合学級により同級生間の広い人間関係の形成、(2)専門性に関わりなく工学に共通の基礎知識を学習する「工学基礎Ⅰ」、(3)専門性に関わりなくモノ作りに必要な知識と実験を学習する「工学基礎Ⅱ(共通実験)」、(4)2年生には創造性を育むために全教員が指導教員となる「ミニ研究」を実施してきました。

学際教育導入が2年目となり、平成26年度の3年生より「新機能材料分野」、「環境エネルギー分野」、「医療福祉分野」の3分野別開講科目を受講することとなっています。現在、専攻科の1専攻3コース制と連動するため、学際科目の授業内容の準備を推し進めています。

学際教育導入後の学生動向について、2年目の今年度に結論を出すことは早計と思いますが、学生達は幅広い知識を身につけなければならない事項を理解し、工学基礎Ⅱやミニ研究アンケート分析結果からその理解度には高いものがあります。前述の3分野別開講科目を受講することにより、さらに幅広い専門性を学生は身につけてほしいと願っています。このことは教育する側の教員も同様であり、所属学科の専門性を基盤にさらに異分野の専門性を取り込む姿勢が必要と思われます。将来の本校学生において、学科横断型の卒業研究あるいは専攻科研究実施の可能性は否定できません。あるいは他高専からの専攻科生が入学してくる可能性も当然想定されるでしょう。学際教育を換言すれば、「異なる分野の融合複合」と表現する語句といえるでしょう。今後もご支援とご協力のほどお願い申し上げます。





新年度にあたって

機械工学科長

小林 隆志

今年度で5年目の機械工学科長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

4月に機械工学科入学生42名を迎えました。新入生オリエンテーションで、将来の夢について書いてもらいました。新入生が航空・宇宙分野、環境・エネルギー分野、医療・福祉分野など、幅広い分野に関心を持っていることがわかりました。各自の夢を暖め、その実現に向けて努力してください。10年後にはどんな技術者となって活躍しているか楽しみです。機械工学科には2年生42名、3年生35名、4年生41名、5年生34名（うち1名留学中）、合計194名が学んでいます。4年、5年にはマレーシアからの留学生が1名ずついます。今年度の担任は、機械工学科2年：佐藤（教養科体育）（副担任：西田）、機械工学科3年：松田、機械工学科4年：村松、機械工学科5年：新富の各教員です。心配な点がありましたら、遠慮なく担任にご相談ください。

4月に永禮教員、松田教員がそれぞれ准教授、講師に昇任しました。井上教員が技術士（金属部門）の資格を取得しました。今年度は三谷教員が高専機構の教員研修制度によりオムロン株式会社に1年間の予定で派遣されています。今年度は人員的には1名少ない状態ですが、各方面のお力添えを得て、機械工学科教員10名が協力して学生の教育・指導にあたってまいります。

今年度の学科の目標としては、何よりも安全教育の徹底を挙げています。自分自身の安全を確保するとともに、身近な人、またより広く社会の人の安全にも留意できるようにしてもらいたいと考えています。技術者としての基本である5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）を指導していきます。

もう一つの目標は留年・退学者を減少させることです。高学年でクラスの人数が40名に満たない状況が続いています。入学後早い段階で進路変更をする学生が少なくありません。学生が機械工学に魅力を感じて、自ら学習に取り組めるよう教育環境の改善、教授法の改善などにも取り組んでまいります。昨年度の補正予算により、機械工学科関係では、先端材料強度評価システム、音響分析システム、振動試験装置、身体機能測定装置、高速度カメラなど多数の最新の試験装置が今年度中に導入されます。これらを有効活用して、教育内容の改善を図っていきます。

これまで全学科の学生の実習教育の指導を担ってきた機械実習工場は、第1実習工場の改修と学際教育の導入を機に、教育研究支援センターとして新たに発足しました。これからも機械技術者教育を支える中核施設として利用していきます。

少子高齢化時代を迎え、貿易収支の赤字が続くなど、日本が困難な問題に直面している中で、新規技術開発などにおいて機械技術者の果たす役割が一層重要になってきています。将来の産業界を支え、リードする機械技術者の育成を目指して努力してまいりますので、保護者の皆様をはじめ関係各位のご支援ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。



新年度にあたって

電気電子工学科長

佐藤 憲史

新年度となり、電気電子工学科では42名の新1年生を迎えました。また、3年生に1名の編入生が加わりました。現在、当学科では、2年生41名、3年生44名、4年生41名、5年生41名、計209名が在籍しています。

新学期が始まった4月に、新入生への学科説明や上級生への学科ガイダンスを通して、学科の特徴と教育内容、学びの意義をお話しました。環境・エネルギー問題解決に直結する電力技術から様々なシステムで必須となるエレクトロニクスまで、ハード（物理）の基盤技術と、その土台となる電磁気学や回路の学習が基本であることを強調しました。また、学生には、All you have to do is ASK! (“The LAST LECTURE,” by R. Pausch) というこ

とを語っています。毎日の授業や生活において、解らないこと、疑問に思ったことを教員や学友に問う、また、自問自答するという姿勢が大切であり成長につながると考えています。

各学年で週1回学生実験がありますが、工学を実践的に学ぶ重要な機会ととらえています。電子回路や電力に関する実験など豊富なテーマで実施していますが、今年度はテーマの絞り込み、新たなテーマの追加を実施しました。5年生が1年間かけて取り組む卒業研究についても、学生の自主性や創造性を育む機会となるよう充実を図っていきます。沼津高専で昨年度実施された入学試験では、当学科の志願者数が回復しました。この状況を維持し、さらに拡大するための活動を強めていきます。具体的には、学科のホームページ（<http://www.denki.numazu-ct.ac.jp/>）の充実を図り、体験入学や高専祭などの行事を通して学科の教育内容や進路等をわかりやすく広報していきます。ご協力いただけることがありましたらお願いするとともに、ご意見などありましたら遠慮なくメール等でお寄せください。

就職や進学活動について近況をご報告します。当学科の5年生は41名おりますが、就職希望者25名、進学希望者15名と、例年より就職希望者が多くなっています（1名は海外留学で休学中）。就職における求人状況は昨年より良好であり、これまで98社から採用担当者の訪問がありました。就職活動は時期が早まる傾向にあり、すでに17名の学生の内々定をいただいております（5月20日現在）。東芝や富士通、JR東海といった大企業はじめ、有

力企業に就職が決まっています。進学については、例年同様、すでに入学願書の提出が始まっています。昨年先輩が大きな成果を残したことに刺激された学生が準備しており、好結果を出すを期待しています。

最後に、教育の改善と充実を目指して教員一同全力で取り組んでおりますので、保護者の皆様の変わらぬご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



平成25年度にあたって

電子制御工学科長
川上 誠

昨年度に引き続き、平成25年度の電子制御工学科長を務めさせていただくことになりました川上です。よろしくお願い申し上げます。

今年度は、新入生を42名、3年次編入生を1名迎え、本科生は合計211名でスタートしました。担任は2年生から順に、住吉（教養科物理）、大沼、江上、そして5年生が牛丸です。副担任として2年生は青木が担任をサポートします。1年生に関しては昨年度から混合学級になったこともあり、学科の担任という概念はありませんが、1-5の副担任である長澤が電子制御の1年生の副担任的な役割を担います。

4月の22、23日には、新入生オリエンテーションが国立中央青少年交流の家（御殿場）で実施されました。初日の午前中には本校の教務に関することや学校生活に関するガイダンスなど学校全体の話があり、午後は5人程度の班に分かれてオリエンティングを行い自然の中を歩き回りました。2日目は各学科に分かれて学科別研修を行いました。本学科の学生には長澤から今後のカリキュラム、勉強の仕方、心構えなどについて説明してもらいました。今年の1年生は緊張した面持ちの中、非常に熱心に耳を傾けてくれたようです。そのあとは両親や中学校の恩師に手紙を書いたようですが、普段手紙など書き慣れない学生が多いため非常に苦労していたようです。最後に全体集会を行い、クラスごとの写真撮影をして全員が無事に帰ってきました。

さて、平成25年度開始にあたり本学科の運営方針を昨年度と同様に以下のように定めました。

1. 留年・退学学生を減らし、怠学をなくし、確かな学力・人間力を培う
 - 学習意欲の向上のために、低学年のキャリア教育を充実する。
2. 学生確保対策
 - 出前授業や地域のイベント等に積極的に取り組む。
3. 学科の将来計画とカリキュラムについての検討

• 社会の要請に合った新テーマについて、カリキュラムの企画やスケジュールを立案するとともに、学科の将来計画を検討し、卒業研究等で教材整備を行う。

4. 地域産業との連携

• 共同研究の推進、インターンシップや卒業研究でも積極的に関わっていく。

5. 工作機器の安全対策

• 全学で共通に利用できる工作室の設置の可能性について模索する。また、本学科工作室の工作機器利用の安全対策をさらに推進する。

6. 学生のモラル向上

• マナー、他人への思いやり、相手を理解し尊重する気持ち等を育てる。

簡単に申しますと、学生の安全を第一に考え、学生にとってもこれから入学を目指す中学生にとっても、また地域の企業にとっても魅力ある学科を引き続き目指していこうということです。

最後に、現在までの5年生の状況についてお知らせします。本年度の5年生は43名、うち21名が就職を希望しています。本年度の求人数はおおよそ340社で、6月14日現在で企業等から内々定をいただいている学生が17名です。アベノミクス効果の影響か、今年度は求人数が大幅に増えました。しかし、企業はただ学生数が欲しいのではなく、いい学生なら採用したいという状況に変わりはありません。それにもかかわらず、まだまだ甘い考えを持っている学生が見られます。また、進学希望者のうち本校専攻科を希望しているものが7名で、あとは大学への編入学希望者です。進学に対しても、将来自分は何をしたのか考えることなく、何となく大学に行きたいと思っている学生もいます。自分というものをしっかりと見つめ、自分の将来を真剣に考える学生になってくれるよう指導していきたいと考えています。

今後とも、保護者、学生、教員の三者が信頼関係を保ちつつ、「人柄の良い優秀な技術者」を輩出すべく学科を挙げて努力していきたいと思っております。保護者の皆様方のご支援とご協力のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。





平成25年度を迎えて

制御情報工学科長
長谷 賢治

若葉青葉を渡る風もすがすがしい折柄、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。キャンパスは今、新入生を迎え、活気に満ち溢れ、生命のもつ「成長力」を最も感ずる時です。この紙面をお借りして平成25年度制御情報工学科の学科組織、教育モジュールの紹介ならびに進路状況などを記してみたいと思います。

まずは学科組織について。本学科の教員集団は2名のスタッフを加え、戦力の増強を実現。一人は企業(OMRON)での開発・マーケティング等の豊富な経験をもつ長縄一智教授(計測工学)。そして、もう一人は医工学を東京医科歯科大学で専攻されていた横山直幸助教(人工臓器工学)です。二人の共通点。それはダブルメジャー。計測工学とマーケティングそして工学と医学。制御情報工学科のさらなる進化のための強力な駆動エンジン。そんな予感のするお二人です。また、学生の成長の「鍵」となる担任。制御情報工学科5年担任には学生のよき相談役の久保進也准教授(光情報工学)、制御情報工学科4年は躰が厳しい吉野教授(ロボット工学)そして制御情報工学科3年には論理的思考の長けた鈴木康人准教授(情報科学)を配置し、低学年の副担任(経験が豊富な教養科教員の補佐役)は制御情報工学科2年に横山助教そして制御情報工学科1年に山崎助教(通信工学)をそれぞれ配置。「このクラスにこの担任あり」という最適マッチングを実現。それに加え、藤尾(CAD/CAM)、芹澤(電磁波工学)、宮下(認知工学)、松本(数値流体力学)そして長谷(制御工学)の総勢11名。この個性ある教員集団で学生へ教育的アクションを投下していく所存です。

次に教育モジュールの一片の紹介を。まずは昨年度から第1年次に新規に組み込んだ「コンピュータ基礎演習」から。これは本学科の教育課程の鳥瞰図を見渡すためのミニ体験版。センサ技術、アクチュエータ技術、コンピュータ技術そしてそれらを繋ぐインターフェイス技術とソフトウェア技術の基礎を体験。そして、チームで競うロボット開発コンテストまで。制御情報工学科のエッセンスが詰まった教育モジュールです。この教程で制御情報工学科の全体像が見えてから本格的な各論へ進む。最初の洗礼は「計算機アーキテクチャ」。難しくても大丈夫。文脈が見えているから。この手法で、高度な専門技術を体得させる。これが制御情報工学科の流儀です。あと、第4年次開講の「創造設計」。これはベンチャー企業を起こしたという想定で、製品企画から設計、製作まで行うPBL型演習。毎年、シーズベースの「遊び心」溢れるイノベティブな作品が誕生する。今年度のテーマは「世の中にないスポーツ機器を開発せよ!」ここから何が生まれるのか。楽しみです。

最後に進路についてです。経済政策の「アベノミクス」。景気回復の兆しが見えてきた。しかし、第5年次学生39名のうち就職希望が13名、進学希望が26名。就職活動の傾向は自由応募が多い。単に大企業を希望するのではなくやりたい仕事で会社を選んでいる。「就社」ではなく真の意味での「就職」。そんな就職活動を展開している。一方、進学は推薦枠での編入を希望してくる学生が目立つ。入試という試験からの逃避か。何事もそのプロセスが人間を成長させる。真の実力を蓄えれば結果はついてくるもの。そう信じて、果敢に学力試験に臨んでもらいたい。

以上、簡単ですが制御情報工学科の学科組織、教育モジュール、進路状況についてお伝えさせていただきました。スタッフ一同、全力で教育・研究に従事したいと思っておりますので、皆様方のご理解、ご協力の方、よろしくお願いいたします。



平成25年度の初めに あたって

物質工学科長
芳野 恭士

学科長を務めて3年目になりますが、今年度もどうぞ宜しくお願い致します。今年度の物質工学科の学生現員は、今春の推薦選抜倍率約2.2倍、学力選抜倍率約2.8倍の難関を突破した1年生43名をはじめ、2年生44名、3年生46名、4年生42名、5年生49名と、いずれも定員を上回っています。今年度入学の1年生は、物質工学科の前身である工業化学科から通算しますと物質工学科48期生、物質工学科だけですと25期生になります。物質工学

科も、平成元年の改組で誕生してから四半世紀が経ち、当時からの関係教員からすると感慨深いものがあります。4年生には、高校からの編入生2名を新たに迎えました。また、インドネシアからの留学生を1名受け入れ、現在インドネシアとマレーシアからの留学生3名が、3年生と5年生に在籍しています。今年度も、女性2名を含む11名の物質工学科教員と他科の教員が協力する体制で、これらの学生に化学・生物系技術者養成のための教育を行っております。なにかお気づきのことがあれば、気軽に担任の教員等にご相談ください。

昨年度から始まった、1年生の混合学級や2年生のミニ研究など、本校での新たな技術者教育の試みも軌道に乗りつつあります。1年生と物質工学科教員の接する科目は限られてはいますが、専門の授業や御殿場での研修、部活動、寮生活などの様子を見てみると、戸惑いの中に

も少しずつ学校生活に慣れて落ち着きが見られるようになってきています。

一方、この3月に卒業した学生達の進路につきまして、企業への就職者19名、本校専攻科や大学への進学者18名と、全員が無事に新たな道に進んでいます。今年度も、就職、進学ともに5月現在において指導中であり、特に進学は6月以降に行われる専攻科および大学の入学・編入学試験に向けて、5年担任の薫科教員と各研究室の指導教員が学生の準備を促しているところです。就職指導は学科長の私が行っており、ほぼ例年と同様の求人状況と感じています。しかし、高専への求人数は減らない反面、特に大手企業の採用レベルのハードルは益々上昇しており、厳しい就職活動状況が続いています。リーマンショックや東日本大震災に端を発する経済不況から、企業はその組織の再編と採用方針の変更を進めており、そのような社会情勢の変化にも学生、保護者の皆様ともに注意深く目を向けてほしいと思います。これまでの経済社会と状況が異なるのは、今後一時的に景気が持ち直したとしても、企業が採用方針を緩めることはないと思われそうです。一方、必ずしも規模は大きくなくても、時代のニーズをつかんで着実に力をつけている地域の企業もありますので、本学科としては、そのような魅力ある企業にも是非優秀な技術者を送って、地域産業の更なる発展に寄与したいとも考えているところです。高専でも専攻科・大学でも、卒業後はいずれは就職することになるので、学生達には以下の点を呼び掛けています。(1)日頃の勉学に地道に勤しむ！ (2)勉学で理解

できないことは放置せずに先生に質問する！ (3)部活動は退部しないでチームワーク・コミュニケーション力を身につける！ (4)ネットだけで情報を得るのではなく、新聞や書籍をきっちり読む！ (5)クラスの仲間同士で勉強を教え合う！……これらのことを実行し、学力の向上に努めるとともに将来の社会人としての自分の姿について普段から考えることが大切です。従来同様、本学科の教員は大変積極的に地域企業との産学連携開発研究に取り組んでおり、これに卒業研究生(5年生)や専攻科生が参画することで、就職や進学に対するよいオンザジョブトレーニングとなっています。さらに、物質工学科では学生の勉学意欲を刺激するために、学科応援教育プロジェクトとして「門池環境調査隊！」や「宇宙大豆プロジェクト」を準備・実施するとともに、「各種化学実験イベントへの学生応援」を単位化した「特別物質工学実習」、主に4年生の就職希望者を対象とした企業インターンシップを単位化した「学外実習」、主に低学年の学生達の夏季休業中の勉強を支援する「物質工学科夏季ゼミナール」を実施していますので、機会をみてお子様を参加させてほしいと思います。

保護者の皆様は毎年お願いしているところではあります。が、悩み多い年頃のお子様を励ましなが、時には厳しい態度で自立を促すよう是非お願いしたく存じます。学生、保護者、教員の信頼関係をより高めることで、有意義な高専生活を学生達に送ってほしいと思います。どうぞ物質工学科の教育活動へのご理解とご支援のほど宜しくお願い申し上げます。



平成25年度の教養科

教養科長
西垣 誠 一

今年度も引き続き教養科長を務めております西垣です。よろしくお願ひします。

まず前号をお読みいただきました方に訂正を申し上げなければなりません。教養科には退職する教員はいないと書きましたが、原稿を提出後国語の大石加奈子准教授が転出することになりました。大石先生は平成16年に本校に赴任してからの9年間、国語教育とくにコミュニケーション能力向上への指導にご尽力いただきました。新たな地での活躍を祈念します。

さて、前号でも書きましたように昨年度から第1学年のクラス編成を学科別から学科混合のクラス編成に変えました。私自身もそのうちの1クラスの授業を担当しましたが、新入生にとってはどのようなクラス編成でも新しい友達とクラスメイトになるという根本的なところは変わりませんので、クラスの雰囲気はこれまでと違うと

いうようには感じませんでした。尤も1クラスを見ての感想ですから、気付いていない面もあるかもしれません。これに対して今年度の第2学年は明らかにこれまでと違って、学科別にクラス編成を直したので、第1学年のときの級友はそれぞれ8・9人というところです。私は2クラスを担当していますが、いずれのクラスも未だにある種のぎこちなさを感じます。勿論これも時間が解決する問題であって、夏休みに入る頃にはすっかり打ち解けていると思いますが、クラスを作るという意味において、第2学年の担任にはこれまでと違った苦労があるようです。

その担任について例年申し上げていることですが、教養科の教員の役割として私が最も重要と考えているのは1・2年生の学級担任です。子供から大人へと成長していく過程で知識の蓄積にのみ偏るのではなく、人間的にも大きく育ててほしいと願うところです。そのため各学年で共通した考えのもと学生を育てるべく毎年学年目標を定め、その目標を念頭に足並みを揃えて指導するよう努めています。その中心になっているのが学級担任です。具体的には次のような目標を掲げて指導していきます。

第1学年

一、規則を守り、自律した生活を送る

- 一、授業を大切に、計画的に学習する
- 一、他者と自分の違いを理解し、思いやりを持つ
- 一、公共物を大切に

第2学年

- 一、ルールを守り、基本的な生活習慣を身につける
 - 一、時間を決めて、毎日勉強する習慣を身につける
 - 一、個性を尊重し合い、仲間と協力して生活する
- これらの学年目標は当たり前のことのように思えますが、取って掲げることにより当たり前のことと流さない

で意識し実行することの大切さを身につけてほしいと願っています。保護者の皆様には勉学のことのみならず、学校生活全般についてご心配なことあるいはご意見などございましたら、どうぞ遠慮なく担任までご相談ください。

沼津高専に入学した学生諸君が多くの知識を蓄えるとともに、心身ともに立派に育ってくれることを願っております。

平成25年度 人事異動について

発令日付	氏名	異動の内容	旧職名等
平成25年3月31日	大島 茂	定年退職	教授（制御情報工学科）
	大石 加奈子	辞職	准教授（教養科）
	石和 嘉衛	定年退職	技術室技術長
	鈴木 由美子	辞職（国立遺伝学研究所へ転出）	総務課財務係長
平成25年4月1日	長縄 一智	教授（制御情報工学科）に採用	
	横山 直幸	助教（制御情報工学科）に採用	
	杉山 迪政	国立中央青少年交流の家へ出向	学生課学生係
	角田 育俊	技術室に採用	
	植松 昌志	国立遺伝学研究所への出向を解く 総務課人事係長に配置換	国立遺伝学研究所 研究推進課調達チーム係長
	小久保 武	国立中央青少年交流の家への出向を解く 学生課教務係に配置換	国立中央青少年交流の家 事業推進係
平成25年4月8日	柴田 圭右	特命准教授（寄附研究部門）に採用	



平成25年度 校務分掌

平成25年4月1日 現在

校 長 柳 下 福 藏
副校長（教務主事） 教 授 蓮 實 文 彦
校長補佐（学生主事） 教 授 大久保 清 美
校長補佐（寮務主事） 教 授 遠 藤 良 樹
校長補佐（専攻科長） 教 授 遠 山 和 之
校長補佐（学際教育担当） 教 授 押 川 達 夫
機械工学科長 教 授 小 林 隆 志
電気電子工学科長 教 授 佐 藤 憲 史
電子制御工学科長 教 授 川 上 誠
制御情報工学科長 教 授 長 谷 賢 治
物質工学科長 教 授 芳 野 恭 士
教養科長 教 授 西 垣 誠 一
図書館長 教 授 江 間 敏
総合情報センター長 教 授 望 月 孔 二 (副) 准教授 鈴 木 康 人
地域共同テクノセンター長 教 授 藤 尾 三紀夫 (副) 教 授 野 毛 悟 仁 (副) 准教授 新 富 雅 仁
教育研究支援センター長 教 授 押 川 達 夫 (副) 教 授 芹 澤 弘 秀 仁 (副) 准教授 山 中 仁

技術室長 教 授 西 田 友 久 猛 技術長 鈴 木 久 博
学生生活支援室長 教 授 小 林 美 学
キャリア支援室長 教 授 大久保 清 美
国際交流室長 教 授 鈴 木 久 博

教務主事 教 授 蓮 實 文 彦
教務副主事 〈欠 員〉
教務主事補 教 授 勝 山 智 男 聡 夫 秀 准教授 井 上 野 明 弘 教 授 高 野 明 弘 教 授 芹 澤 弘 秀

学生主事 教 授 大久保 清 美
学生副主事 〈欠 員〉
学生主事補 教 授 小 林 美 学 悟 仁 信 司 教 授 野 毛 悟 仁 信 司 教 授 鄭 宮 下 真 晃 准教授 宮 下 真 晃 准教授 稲 津 晃

寮務主事 教 授 遠 藤 良 樹
寮務副主事 〈欠 員〉
寮務主事補 准教授 宮 内 太 積 樹 馬 准教授 鈴 木 正 樹 講 師 藤 井 数 馬

事務部長 上 原 正 宜
総務課長 五 条 寿 久 充 三 課長補佐 露 木 弘 義 課長補佐 影 島 義 三
学生課長 入 吉 修 二 課長補佐 室 伏 啓 二

教科主任
国 語 准教授 中 園 孝 信
社 会 准教授 佐 藤 崇 徳
数 学 准教授 佐 藤 志 保
物 理 教 授 住 吉 光 介
化 学 教 授 小 林 美 学
体 育 教 授 佐 藤 誠
英 語 教 授 鈴 木 久 博
ドイツ語 教 授 大久保 清 美

寮監及び寮監代行			
寮 監 福 木 洋 一			
寮監代行			
前 期	火	宮 内 太 積 鈴 木 正 樹	藤 井 数 馬 大 澤 友 克
	水	宮 内 太 積 鈴 木 正 樹	藤 井 数 馬 小 柳 敦 史
後 期	火	宮 内 太 積 鈴 木 正 樹	藤 井 数 馬 小 柳 敦 史
	水	宮 内 太 積 鈴 木 正 樹	藤 井 数 馬 小 柳 敦 史

学 級 担 任							
学年	クラス	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	学年代表
1		鈴 木 久 博	澤 井 洋	勝 山 智 男	佐 藤 崇 徳	中 園 孝 信	勝 山 智 男
副		大 川 政 志	宮 内 太 積	望 月 孔 二	山 崎 悟 史	長 澤 正 氏	
学年	学科	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	制御情報工学科	物質工学科	
2		佐 藤 誠	藤 井 数 馬	住 吉 光 介	村 上 真 理	鈴 木 正 樹	住 吉 光 介
副		西 田 友 久	江 間 敏	青 木 悠 祐	横 山 直 幸	山 田 祐 一 郎	
3		松 田 伸 也	眞 鍋 保 彦	大 沼 巧	鈴 木 康 人	後 藤 孝 信	後 藤 孝 信
4		村 松 久 巳	西 村 賢 治	江 上 親 宏	吉 野 龍 太 郎	竹 口 昌 之	吉 野 龍 太 郎
5		新 富 雅 仁	嶋 直 樹	牛 丸 真 司	大久保 進 也	藁 科 知 之	牛 丸 真 司

平成25年度 学生会・クラブ・同好会顧問教員

クラブ・同好会名	顧 問 教 員 名				
陸上競技部	○渡邊 志保美	牛丸 真司	江上 親宏		
ソフトテニス部	○平田 陽一郎	佐藤 崇徳	村上 真理		
バレーボール部	○大庭 勝久	長澤 正氏	小林 隆志		
バスケットボール部	○遠山 和之	藤井 数馬	松本 祐子		
野球部	○中園 孝信	手塚 重久	住吉 光介	宮下 真信	横山 直幸
卓球部	○稲津 晃司	高野 明夫			
柔道部	○松澤 寛	西垣 誠一			
剣道部	○澤井 洋	鈴木 久博			
サッカー部	○望月 孔二	駒 佳明	山崎 悟史	山之内 亘	長縄 一智
ラグビー部	○井上 聡	鄭 萬溶			
体操部	○佐藤 誠	大久保 進也			
水泳部	○小林 美学	新富 雅仁	大澤 友克		
合気道部	○長谷 賢治	山田 祐一郎			
テニス部	○竹口 昌之	古川 一実	後藤 孝信	西田 友久	
スキー部	○嶋 直樹	川上 誠			
ハンドボール部	○野毛 悟	松田 伸也	小柳 敦史		
弓道部	○芳野 恭士	佐藤 憲史			
空手道部	○芹澤 弘秀	宮内 太積			
バドミントン部	○押川 達夫	藤尾 三紀夫	大沼 巧		
トライアスロン部	○出川 智啓	鈴木 正樹			
吹奏楽部	○藁科 知之	永禮 哲生	山根 説子		
囲碁将棋部	○勝山 智男	待田 芳徳			
ロボコン部	○青木 悠祐	山中 仁			
学生会	小林 美学	野毛 悟	平田 陽一郎		
同好会(理科系)	○村松久巳(機)	○大川政志(天)	○江間 敏(環)	○鈴木康人(プ)	
同好会(文科系)	○眞鍋保彦(合)	○吉野龍太郎(軽)	○西村賢治(大)	○佐藤志保(茶・E)	

同好会(理科系) 機械工学・天文・環境問題研究会・プロコン

同好会(文科系) 合唱・軽音楽・大道芸・茶道・ESS

平成25年度 学校医・歯科医・薬剤師・カウンセラー

氏 名	担 当	本 職
杉山 賢一	内科医	杉山病院
堰澤 敦	歯科医	せきざわ歯科医院
山口 宜子	薬剤師	たんぼぼ薬局
宇治 友子	カウンセラー	オフィス友
房間 貞	カウンセラー	常葉学園

着任挨拶



分かり易く 現場で役立つ授業を

制御情報工学科
長 縄 一 智

高専制度創設50周年を迎えた昨年、沼津高専の公募に応じ、この4月から制御情報工学科でお世話になることになりました。私は、昭和58年（1983年）に、同じく創業50周年を迎えた京都の立石電機（現在のオムロン）に入社したことから、「50年つながり」という不思議な縁を感じております。

私は、将来の日本のものづくりの主演となる学生に、私のつたない社会人経験も織り交ぜながら「分かり易く現場で役立つ授業」を心がけようと思っております。

オムロンでは、京都府長岡京市にある研究開発拠点を振り出しに、オランダにあるオムロン欧州本社、岡山事業所、京都事業所等を経て、平成18年（2006年）から約3年間、三島市松本の三島事業所に勤務いたしました。

その三島勤務時代に、3ヶ月間の「長期リフレッシュ休暇」を利用して、メーカー就職を希望する理工系学生を対象に「商品開発の流れと設計のポイント」（日本工業出版社）という題で本を書きました。その中で私は、「技術者としての資質や本質に迫る教育は、会社に入ってからではなく高等教育期間中に習得しておくべきである。」と述べました。その後、これも縁あって、当時沼津高専で実施していた「ものづくりステップ・アップ実践プログラム」の「先端技術講座」に講師として招かれ、学生に

その内容に基づく講義を行わせて頂きました。オムロンでは、社憲（社訓）の中に「よりよい社会をつくりましょう」という文言があり、その実践の一つとして、地域貢献活動に積極的に取り組んでおりますが、当時、沼津高専との関わりができましたのも、オムロンの風土、そして沼津高専で、産学連携が叫ばれていたことが大きかったのだと思います。その講義中、或いは成果報告書にある学生の感想文を読ませて頂く中で、学生にもっと深く関わることで技術者育成の手助けをしたいという思いが強くなり、それが今回高専教員となるきっかけとなりました。

技術者が技術的な原理や理論を習得することは当然のことですが、加えて、企業が顧客に対し商品やサービスを提供する際に必要となる「顧客目線」を持つため、或いはチームや単独で与えられた業務を行う際の考え方のベースとなる知識を持つために必要となる知識や手法を授けていきたいと思っております。そしてそれこそが、上述の「技術者としての資質や本質に迫る教育」、沼津高専が掲げる「人柄の良い優秀な技術者となって世の期待にこたえる」ことにつながると思っております。

日本の人口減少と生産地の海外流出は今後も続くでしょうが、技術者としての資質の高さがある限り、国際舞台の中心で日本人がものづくりの役割を担い続けることは可能です。

学生が将来、企業人、社会人、そして国際人として、有意義な人生を過ごし、社会貢献を果たして頂くため、微力ではありますが、そのお手伝いをしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



世の期待に こたえるために

制御情報工学科
横 山 直 幸

本年4月1日付けで制御情報工学科に着任いたしました横山直幸と申します。出身は静岡県焼津市で、芝浦工業大学工学部機械工学科を卒業後に東京医科歯科大学大学院へ進学し、人工心臓開発を軸とした医工学の研究で博士号を取得しました。学位取得後も同大学の心臓血管外科に籍をおいて研究生活を送っていたところ、地元静岡県の東部地域において沼津高専が中心となって「富士山麓医療機器開発エンジニア養成プログラム（F-met）」が進行しており、平成26年度からは沼津高専の専攻科に「医療福祉機器開発コース」が新設されるため、私のよう

に医工学の研究を行っている教員を必要としているとのお話をいただきました。このようなご縁に恵まれて本学に赴任する運びとなりましたが、沼津高専といえば県下有数の名門校であり、その優れた教育方針や卒業生の質の高さは全国に鳴り響いております。その沼津高専で教鞭をとらせていただくことは大変な誉れであり、また責任の重さをひしひしと感じているところであります。

さて、私が芝浦工業大学に在学中、ものづくり技術を学ぶ楽しさに浸りつつも「習得した知識をどのように活用すべきか？」という命題をいつも胸に抱えておりました。そのような折、重度先天性心疾患（心奇形・心不全）をもって生まれた子供の救命率が極めて低く、その原因のひとつが、心臓移植や心奇形形成術の術前に外科的手術に耐えうる血行動態を回復させ、移植ドナーが現れるまで生命を維持する小児用人工心臓が存在しないためであると知りました。月にヒトを送り届けるこの時代に、1歳に満たない患児を助ける機械が存在しないという事

実は大変な衝撃でした。詳細に調査した結果、当時アメリカでは小児用人工心臓開発5ヵ年計画が進行中であるが本邦には国策としてそのような動きはないこと、小児心疾患に対してはリスク覚悟の上で成人用の人工心臓を流用（軽自動車にジェットエンジンを積むような状態）していることがわかりました。また、国内の医療機器メーカーが小児用人工心臓の開発に着手するには、リスクやコストが大きく、市場が極めて小さいということもわかりました。そこで私は、大学などの高等教育機関でならばリスクや利益に縛られずに小児用人工心臓に向き合えるのではないかと考え、大学院修士課程・博士課程と東

京医科歯科大学にて人工心臓の研究開発を行い、工学をライフワークとするに至りました。沼津高専においては、医科歯科大学で開発したものよりもさらに良い人工心臓を実現できるよう取り組んでいく所存です。

最後に、私が人工心臓開発という使命に出会ったように、学生諸君にも「世の期待にこたえる」ための道を見つけていただきたい。そのために私は、習得した工学の知識や技術をどのように活用するか？何のために勉強をするのか？を考える契機を提供できるように精一杯努力します。これからどうぞよろしくお願いいたします。

新入生から（入学にあたり）

沼津高専から夢に向かって

1年4組 坂井 達成

僕には夢があります。いつか探査機を開発し、宇宙に飛び立たせることです。これは、今僕の中で一番大きな目標です。この夢に向かい、叶えるため、たくさんの期待と不安を胸に、ここ沼津高専に入学しました。

目標に向かうには、勉強が大切になります。頭の良い優秀な技術者になることが必要となってきます。だから最初は、勉強をとにかく頑張らなければと思っていました。しかし僕は、僕が思う中でこれ以上に大切なことがあると思います。それは、人との関わりです。沼津高専の教育理念「人柄の良い、優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」にあるように、優秀である前に人柄の良いことも重要であると思います。夢を叶えることは、一人ではできません。チームワークやコミュニケーションなど、これらのことがあって、僕の夢は達成できると思います。だからこそ、僕は人との関わりを大切にし、人として思いやりのある存在になりたいです。

人と関わる上で、自分自身が耐えなければいけないことがあると思います。考えや思いは人それぞれ違います。その上で、自分が主張し過ぎず、どれだけ相手の意見を

聞き、尊重できるか。こういうところで自分が耐える、つまり、相手のことを思いやる強さが必要です。

正直、僕にはまだ、その強さがないと思います。中学の時、メンタルがあまり強くなかったので、人と関わるとすぐに疲れてしまいました。それが他の事にも影響し、学校が嫌で、家族や先生、周りの人に心配をかけてしまいました。だからこそ、より強くなりたいという思いがあります。

ここ沼津高専には、寮があり、たくさんの人と生活を共にしています。この寮生活が始まって、まだ少しですが、既にたくさんの人と関わっています。これは僕にとって大きなチャンスのある場であると思います。ルールなど大変なことは色々ありますが、このような中で、どれだけ人のために働けるか、思いやりを持てるか、行動次第で大きく成長できる気がします。

僕が持つ夢は、きっと人の役に立てるものだと思います。だから絶対に叶えたいです。今はまだ小さなことしかできませんが、その一つ一つを大切にこなしていきたいです。あいさつ、返事、聞く態度、当たり前のことを当たり前に行動し小さなことから、積極的に行動し、自分自身を磨いていきたいです。そして、思いやりのある行動をたくさんしていきたいと思います。

沼津高専、そして、寮での生活は、楽しいことも多くありますが様々な困難があると思います。しかし、そんな時こそ人のために自分が出れることをたくさんしていきたいと思います。楽しいこと、大変なこと、たくさんの経験を積み上げて、人一倍、強い存在になりたいです。いつか世界中の人々のために、大きなことができるよう、少しでも、友達、家族、先輩、先生方など、人との関わりを大切にしていきたいです。そして、思いやりのある人柄の良い、優秀な技術者を目指し、今この時を走り続けていきます。



高専入学後の私

1年5組 久保寺 智 哉

私は沼津高専に入学する前は、勉強についていけるのか、寮生活に馴染んでいけるのか、いろいろな心配をしていました。

入学初日、周りの同級生は頭の高さそうな方ばかりで、上級生に話しかけることもできずにいた私に、まず話を聞いてくれたのは同じ部屋の相方でした。中学の思い出を語った後は、アニメ、ゲーム、雑学の話をして盛り上がっていました。それからは、同じ寮にいる同級生やクラスの友達ともっと話がしたい、と話しかける機会を自分から作っていけるようになりました。そのきっかけをつくってくれた相方にとっても感謝しています。

次に、今私が寮生活を送るうえで最も気を付けたいと思っている縦の繋がりについてです。寮の階ごとに行われるミーティングで上級生の方が、寮には縦の繋がりがあるから、寮は社会の縮図と呼ばれているとお話されていました。会社に入社しても上司と部下のように縦の繋がりがあります。一度社会に出る前にここで縦の繋がりを学ぶことができるということが、上級生の方がお話しなさってくれた内容でした。寮生活を過ごす中で、大きな声で挨拶をすることや、先生方や上級生の方とお話をするときに敬語を使って話すことは、寮の規則、一般の礼儀を守ることに以外にも自分の将来のためにもなっているのだと、すごく感心しながら話を聞いていました。

私はこの教訓を常日頃から心がけて、高専の寮生活を送っていきたくと思います。

最後に勉強についてです。高専に入学して初めてのテストに関しては周りのレベルの高さに翻弄されてしまいました。授業の進行も中学に比べるととても速く、ノートをとるのに精いっぱいなところもあります。ですが、放課後の時間等を利用して、先生方に授業内容を教えてもらえる時間が設けてあるので、授業の内容にはついていくことができます。しかし、次に問題になるのが寮での勉強時間の確保です。部活をして寮に帰ってきてからはお風呂と夕食を済ませなければならないのでその間は勉強できません。夜にと思っても、洗濯や掃除をする時間を削れば後に残る時間はそう多くありません。先生方は限られた時間の中で集中して勉強することが大切だとおっしゃいます。まだまだ未熟な私ですが、これからの高専生活をこのような勉強と、行事を通して成長していきたいです。



卒業生から



説明力

電気工学科31期
佐藤 弘 康

私は電気工学科卒業後、千葉大学の機械工学科を経て国産電機株式会社に就職しました。沼津高専のすぐ南にある会社なので、名前を聞いたことのある方がほとんどでしょう。国産電機は、エンジンの動作に不可欠な発電機、電圧レギュレータ、コントローラ、点火コイルといったエンジン電装品と電動パワーステアリング用モータ、ABSモータ等の車載小型モータを手掛けております。私はこれまで、バイクのエンジン制御装置を主に各種コントローラのソフトウェア設計を担当してきました。電気、機械、ソフトウェアといろいろなことに手を付けて来ましたが、これまでの社会人生活で、技術と並んで必要と

感じることに書かせて頂きます。

東日本大震災から2年が経ちましたが、当時のことを少し思い出してください。原発事故が発生し、原子力の専門家が頻りにテレビで事故について説明をしていました。みなさんは彼らの説明がわかり難いと感じませんでしたか？理系の学生のみなさんがそう感じるのであれば、文系の方には特にわかり難かったはずですが、では、何故わかり難かったのでしょうか。それは説明する相手の知識レベルを考えず、専門用語満載で説明をしていたからだと思います。ちょっと立場を変えて、自分の作った製品をお客さんに売り込む場面を考えてみてください。技術的にどんなに優れた製品が出来たとしてもお客さんにその良さを伝えられなければ買ってもらえませんよね。この例以外にも会社に入ると説明が必要な場面がたくさんあります。経営サイドへの説明ができないと開発予算を貰えず、生産現場への説明ができないと意図した製品が出来上がりません。私の下手な説明でも説明することの大切さが少しでも伝わったでしょうか。学生の皆さんは、

説明する場面より説明を受ける場面が多いかもしれませんが、わかり難い説明に遭遇した時「自分だったらこう説明する！」をぜひ考えてみてください。きっと将来役に立つと思います。

最後に一言。この原稿依頼を機に沼津高専のホームペー

ジをのぞいて見たところ、同級生が二人も教員として戻ってきておりました。思い出話をしに学校へ足を運びたくなりました。学生の皆さんも、将来濃い思い出話ができるよう充実した学生生活を送ってください。

高専で学んだ事を振り返って……

電子制御工学科17期 小池 奨

私は沼津高専の電子制御工学科を卒業し、東北大学に編入・修士課程修了後、東芝テック株式会社に勤務しています。今回縁があって、このような機会をいただいたので私が今、高専で学んだ事を振り返って思う事を後輩の皆さんにお伝えしようと思います。

皆さんご存知の通り高専では、3、4、5年生の3年間みっちり専門科目を学ぶことができます。3年生くらいの専門科目では物理や数学など基礎的な科目が多く、私も「今後どのような道に進んでもある程度役に立つのだろう」と思っていました。ところが、学年が進むにつれ、専門科目は狭い分野に偏ったものが増えてきて「こんな事学んでも無駄ではないか」と思う事が多くなってきてを覚えています。今振り返ってみると確かに基礎的な専門科目については役に立つものが多いですが、高専高学年で学ぶ専門科目でこれまでに、直接役に立ったものは少ないです。しかし、この高度な専門科目を数多く学んだことで、いろいろな分野の勉強のやり方が身に付いたり、物事を多面的にとらえられるようになったりと間接的に非常に役に立っています。

現在、私は仕事でMFP（複合機）の制御回路の設計をしています。回路設計を行うためには電気回路について

専門的な知識が必要ですが、それ以外にも用紙搬送などの機構を理解するための機械工学、モータやセンサをコントロールするための制御工学やソフトウェア、トナーを紙に定着させるプロセス工学、環境や電波などの法規、他にも挙げたらきりがなほど多くの分野についてある程度の知識を持っている必要があります。会社ではこれら多くの知識について必要最低限のことは教えてもらえますが、毎日のように出てくる知らない事、分からない事、想定していなかった事に対応していくためには教えてもらえる事だけでは不十分な事が多く、より深い知識を得るために自ら勉強するしかありません。私は高専で数多くの専門分野について学んだおかげで、仕事に必要な幅広い分野の勉強を新たに始めるときに対象の分野についてはどういったところを勉強すれば良いかという事を的確に導けるようになったと感じています。

自分の専門分野以外の広い知識を持つ事は、技術者としてどんな仕事をするときも重要になると思います。大学の研究や会社の仕事では自分の専門分野について学ぶ機会は多くありますが、それ以外の専門分野について学ぶ機会はあまり多くありません。

皆さんには、高専で幅広い分野の知識を学び、新しい事に挑戦する力を身につけたり、今後自分が仕事で極めたいと思う分野を探す事を大切に生活してほしいと思います。

皆さんの健闘を祈ります。

留学生から

初めての日本の生活

物質工学科 ザマン ワイス アルキンディ ヌル

はじめまして、私はワイス・アルキンディと申します。インドネシアから来ました。今年度から物質工学科第3学年で勉強しています。私は日本を夢のような国だと思ってきました。インターネットやテレビからの情報を通して、建物や乗り物など素晴らしい技術があること、東京タワーやディズニーランドなどいいところもたくさんあること、日本に行くのをすごく楽しみにしていました。

昨年4月1日、飛行機で約7時間かけて成田空港に着きました。日本に着いた時、気温が8℃くらいで、と

ても寒くて大変でした。インドネシアは赤道下にあるので1年を通して27℃～30℃くらいと温暖だからです。成田空港から東京までのバスを降りた後、周りを見て、何も読めないことに気がきました。日本語はひらがなしかできませんでした。食べ物を買うとき、何も読めないことは、食べられない物があるので、とくに大変でした。

来日一週間後、インドネシアの学生と一緒に新宿御苑へ花見に行きました。当日は生まれて初めての桜を見ようと思っていました。しかし、新宿駅でお手洗いへ行ったとき、グループとはぐれてしまいました。花見の場所も宿舎の住所も分からず、携帯電話もまだ持っていない上に、あたりの日本語は何も分かりませんでした。一人大きな街中で迷ってしまいました。3時間も歩き回ったあと、やっと友達に会えたときは、涙が出るほど嬉しかった。

たです。私はこの出来事で言葉の大切さを痛感し、その後一生懸命日本語を勉強しました。

翌日から、東京日本語教育センターに入所しました。そこでは一年間、日本語と理科の勉強をしました。学生は全員留学生で、日本の様々な文化や情報を先生から優しく教えてもらいました。毎日、文法・漢字・単語を勉強しました。漢字を覚えるのが一番難しく大変でしたが、友達と一緒に勉強することで楽しめました。

でも時間が経つにつれ、インドネシアのことを懐かしく思う気持ちが出て来て、何度もホームシックになりました。特に家族のことが恋しくなり、とても辛かったです。母国では毎日母が料理を作ってくれていたため、日本へ来たばかりはまったく料理を作ることができませんでした。今は、毎日料理を自分で作るようにしていますが、まだ上手に作れないので美味しい料理を作れるようになりたいです。国では、学校から帰ると毎日両親と色々

なことを話していましたが日本では電話でときどき話をするだけです。しかし、この悲しい気持ちは私にとっていい経験になりました。その後、私は新しい友達を作ること、季節のこと、観光地のことなどいいことだけを考えるようにして日本での生活を楽しむようにしました。

東京日本語教育センター卒業後、沼津高専に入学しました。初めての授業は緊張しました。クラスには留学生が私しかなくて、ほかのみんなは日本人です。クラスメートの人々と色々な話をしたいのですが、まだ日本語があまり上手でないので話すことができません。でも、クラスの人たちは優しいです。これからは様々な経験を積み、たくさんの友達を作りたいと思います。

最後に、留学生活は易しいことではありませんが、この大変さを逆に楽しんで、いい学生になりたいです。これからよろしくお祈りします。

寮生会活動について

学寮について

物質工学科4年 寮長 金子直嗣

皆さん、こんにちは。寮長の金子直嗣です。学寮では、558名の寮生が7つの棟に分かれて生活を送っています。沼津高専の学寮は教員の助言・指導のもと、寮生自身が運営を行う自治寮です。この自治というものが沼津高専の学寮と他高専の学寮との大きな違いであり、全国で注目されている理由でもあります。学寮での生活や経験から得たことは人生の糧となり、それが私たちが社会人になるために大きく影響を与えています。本校の教育理念である「人柄の良い優秀な技術者」になるためにも、学寮は欠かせない存在です。そのような学寮が私は大好きです。今回は学寮の魅力について話したいと思います。

私は寮生活を過ごすうえで様々な経験をしてきました。1年生に寮生活の楽しさや厳しさを教える階長や、その



階長や上級生をまとめる棟長、そして今年度は寮長という立場になって寮生活を送っています。私がこれらの経験から得たことは主に2つあります。

1つ目は、「自立」です。寮生活では朝は自分で起き、自室や棟内の清掃や洗濯も自分で行います。私は入寮してから改めて両親への感謝の気持ちを抱くようになりました。はじめの頃は先輩方に指導されていましたが、勉強も寮で設けられている勉強時間でしっかりと取り組むようになりました。自ら考え行動する習慣が寮生活より身につきます。自立した寮生の姿は夏休みの帰省の際に見ることができるでしょう。

2つ目は「人との繋がり」です。寮生活では人との繋がりを持つ機会がたくさんあります。同じ棟や同じ階に住む仲間や、寮祭などの行事や部活動からできた仲間など、広く人との関わりを持つことができます。集団で生活することで、みんなで協力し合い、時に互いに切磋琢磨することができます。ここで得た繋がりはこれから先、消えることの無い関係を作るでしょう。



寮は普通の生活から見れば不便な事が多いです。ですが、規則を守った生活を送ることで自立することができます。また、人とのつながりは、不便な生活をより楽しい生活に変えてくれます。これが私の思う最大の学寮の

魅力です。最後に私寮長をはじめ、寮生会本部、寮生会役員は、寮生一人一人が思い出に残る充実した日々が送れるよう精一杯活動をしていきます。これからも応援のほど、よろしくお願いします。

私の高専時代



私の高専時代と今

電子制御工学科
(機械工学科15期)
牛丸真司

卒業後11年を経て母校に戻ってから、21年が経ちます。私が高専生として沼津高専で学生時代を送ったのは、1976年～1981年です。卒業後、静岡大学、名古屋大学で大学・大学院生活を送り、1992年に本校に赴任しました。

在学当時の高専の雰囲気は、多少感じ方が違うところはありますが、昨年度の高専だより(第101号)で、私より2期先輩の長谷先生が振り返っているとおりです。強烈な個性の教官がたくさんいて、寮は封建的縦社会の中で自分を強くする修行の場であり、学校行事や部活動は学生自身の責任(判断)でやっていかざるを得ない場面が多々ありました。

当時私はラグビー部に所属していましたが、試合を組むのもコーチを探すのも学生自身が行っていたのを覚えています。そういう環境の中で経験した数々のことが、ひ弱な15歳の少年を、立派かどうかは分かりませんが、社会(その後の人生)に飛び出していける20歳の青年へと成長させてくれました。

まだ日本が高度経済成長の只中であって、経済・人口が拡大し、社会システムの多くが未完成であった時代(戦

後～80年代前半頃)においては、社会は様々な矛盾を抱え込みながらも、前を向いて進んでいました。それが「今」、社会のシステムは成熟・高度化し、経済と人口は縮小しつつあります。成熟した社会はリスクを冒すことを嫌い、そのための仕組みをより強固にしようとし、それは単に、責任の所在を曖昧にするための仕組みだったりもします。

昨今の教育の世界で行われていることにも、それに類することがあるように思います。その結果、赴任当時と比べて事務的仕事量が膨大になり、本来の教育・研究という点での生産性を低下させていると感じています。システムの過度な高度化による生産性の低下という状況は、教育現場に留まらず、会社組織の中でも見られると聞きます。

数年前から団塊の世代が定年退職する時代に入っています。本校でも、この数年でその世代の個性豊かな先生方が多く退職し、代わって20代から30代前半の若い教員が入ってきています。本校の次の時代を担うのはこの若手教員達です。産業構造が変わっていても、日本のもの作りを支えるエンジニアを輩出することが高専の使命であることに変わりありません。また、高専での5年間が、学生にとって人生において大変貴重なものであることにも変わりありません。かつての高専を知る教員の一人として、若手教員とともに、学生がたくましく成長していけるような教育の場を少しでも多く作り出していきたいと思っています。

教育後援会から

会長就任のご挨拶

教育後援会会長 鈴木政孝

本年度教育後援会会長に就任いたしました鈴木政孝でございます。保護者の皆様の代表として、この大役を誠心誠意努めさせていただき所存でございます。これから一年間ご指導とご協力のほどよろしくお願い致します。

教育後援会は、学校教育の発展振興に寄与することと併せて会員と学校とのコミュニケーションの緊密化を図ることを目的に、必要な施設並びに運営の助成、学生の

課外活動の助成、研究研修に関する助成など、会則に記載されている6つの事業を行っています。

これらの事業は、われわれ保護者が高専教育の理念や目的に賛同した上で、柳下校長先生以下教職員の方々と密接に協議しながら、学生たちの育成に対し最前の方策を考え実行していきたいと思っています。

新1年生に於かれましては入学後3ヶ月たち、学校にも寮生活にもそろそろ慣れてきたことと思います。しかし、ご父兄に於かれましては、今まで15年間自宅から通っていた子どもたちが寮での団体生活となり、本人よりも親の方が心配しているかと思えます。

私がこの4年間後援会の役員として感じていることは、

教職員の方々が学生一人ひとりの技術者としての知識はもちろん、よりよい人間形成を第一に考え、親のように接し、丁寧な指導を行っているということです。「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」という沼津高専の教育理念を確実に実行されていると感じています。

また昨年度より始まった学際教育は、近年の産業界から強く求められる幅広い工学知識・技術を身につけるために始まったカリキュラムで、学科の枠を越え相互に学習でき、より時代にあった技術者育成を可能にし、進路の選択肢が広がるというメリットがあります。

「アベノミクス」により経済好転の兆しが見えてきましたが、まだまだ実感として感じられないのが現状です。しかしながら、今後の産業構造の変革に伴い、より優れた技術者のニーズは今まで以上に高まっているのは確かです。産業界、大学、大学院から高専生への評価はとて高く、注目されているのも事実です。

50年の節目を越え、沼津高専は今までよりさらに高度な教育機関に変化しています。育った学生が多方面の分野で活躍すること、それに続く沼津高専に興味を持った生徒が一人でも多く入学してくることを願い、私の挨拶と代えさせていただきます。

平成24年度読書感想文コンクール

最優秀賞・優秀賞の受賞者は以下の通りです。

平成24年度読書感想文コンクール

図書館長 江 間 敏

平成18年度から始まった校内読書感想文も昨年で7年目となりました。

例年、数件の応募で低調でしたが、昨年度は国語科の協力もあり、1年生全員の夏休み課題として取り組んでいただきました。その結果、全体で214件の作品応募となりました。



●最優秀賞

1年1組（現 機械工学科2年） 山下美綺
1年3組（現 制御情報工学科2年） 塚本唯斗

●優秀賞

○専攻科生の部

C B 1 新美茉莉

○2年生以上の部

E 5 川口直輝、S 4 増川隼人

○1年生の部

1組 飯田涼太、植田恵梨、鈴木莉子
2組 大川真穂、茶田智来、土井公一朗
3組 赤土雄介、勝又洋二、中澤優仁、榎本耀太
4組 大場春佳、荻野恵行、折原玲美
5組 坂本優太、樋口 健、芳野広起

ここでは最優秀賞を受賞した2件を掲載いたします。

これからは理系学生の国語力、読書力もますます重要になります。今後も教員、学生一体となって読書感想文コンクールに取り組む必要性を感じています。

「ダーウィンと出会った夏」を読んで

1年1組（現 機械工学科2年）

山下美綺

私は現在のアメリカの大量消費社会、女性の様々な学問における活躍の理由がこの本には記されていると思った。それがこの本の時代背景と主人公の生き様だ。

まずこの本の時代背景は、南北戦争の後のアメリカ南部のテキサス州だ。南軍は奴隷制度を支持していた。これはアメリカ南部がイギリスによる植民地支配から独立してなお、綿花等の栽培、つまり農業が盛んだったから

だと思う。作中にも刈り入れ時には多くの人手を雇ったとあり、また子供の交友関係にすら、大きな農場を持つ家の子供と自分の子供が仲良くなってくれればという親の打算も見られる。そうすれば今後の生活も安泰という意識もあったのだと思う。社交界で良縁に恵まれ家に引きこもるのが幸せという風に自分に信じこませながら当時の女性は生きていたようにも思える。

少なくとも子供のうちはその風潮にあらがっていたのが主人公の少女だと思う。耐え難い苦勞をお酒でやり過ごす母、マナーなど形式ばかりにこだわるピアノ教師、家が裕福だから娘に仲良くさせようとする近隣の住民。これだけ悪い点ばかり目につけば反抗しない方がおかし

いとも思える。ただ彼女にとって知的好奇心を抑えられることが最も辛かったのではないか。周囲の女の子たちが料理に裁縫にと花嫁修業に精を出していても、自分が興味を持っているのは植物や動物だった。でも親には許してもらえない。古い宗教観念にとらわれた世間からは白眼視される。あくまで女は男より知恵をつけるべきではないと。

ところが今となっては優秀な女性のドクターが大勢いる。当時は奇人・変人呼ばわりされてしまっていた主人公の祖父のような人がありっただけの知識を授けてくれたのも要因の一つだと思う。時に進んだ考えや高度な知識は封建社会に害を為す。現状により甘い汁をすすめる人は現状維持をしようとするのが世の常であるし、権力を前に多くの人は下手な抵抗はしないというのもまた同じだ。例えば地球は平らだと神父様が教会でおっしゃったなら、事実がそうであっても球体だと言った人は村八分の憂き目に遭ったのではないか。だからこそ主人公の祖父のような教育熱心な人物が蛾のたかる研究室でひっそりと暮らす羽目になっていた。そんなところに好奇心の塊が転がってきたら、例え女の子でもそれを伸ばしてあげたいと願うのが普通だ。世間の大多数の意見よりも身近な支えと自分の気持ちを尊重した女性が彼女たちの先駆者となったのだろう。

やはり封建社会は南部の近代化にかなり重いかせをつけていたのではないか。奴隷制度、黒人差別、女性差別などの思想の遅れだけではないように思える。良い家系の生まれかどうかで一生が決まるような節もあった。行く教会でその人のことが決め付けられる。この話では本人の人柄にも難があったから破談になったということだ

「下町ロケット」を読んで

1年3組(現 制御情報工学科2年)

塚本唯斗

僕が読書感想文で読んだ本は、池井戸潤さんが著した「下町ロケット」という本です。

僕がこの「下町ロケット」を選んだ理由は、直木賞を受賞した時に話題になっており、面白そうで以前からとても興味を持っていたからです。あと、何か「下町ロケット」という題名にひかれたという理由もあります。

この本では、東京都大田区にあるエンジン部品の製造を行っている中小企業の佃製作所が主役となっています。その佃製作所が取得した最先端特許をめぐる中小企業と大企業の熱い戦いを書いた物語です。

主人公の佃航平という男は、かつて研究者としてロケット開発に携わっていたがロケット打ち上げ失敗の責任を取って、研究者の道をあきらめ、親の跡を継いで従業員200人の佃製作所を経営しています。そして、文章を読んでいくうちにこの佃航平という男は、とても熱い男だと

が、そうでない場合も実際はあったと思う。自由を謳う国がこんなカースト制度も真っ青なことを初期はしていたなんて思いたくない。生まれながらにそうなら貧しい人は貧しく生きる他ないし、富裕層は散々ぜい沢できる。世の中はピラミッド型だから前者の方が圧倒的に多い。それに黒人奴隷は土地に代々縛られていた。もし皆が一度に同じ立場になったなら、遠慮なく良い暮らしをしようとするのが当たり前だと思う。それに過去の反動がでも誰にも責める権利はない。

欲と言えば悪いものだという意識があると思う。でも今私たちが憲法やら何やらで保障されている権利には、昔の人が欲深いとののしられながら手に入れてくれたものではない。自分たちが学校に行く権利は知識欲にあたるだろうし、昔差別されていた人も平等なのは出世欲にあたるかもしれない。だが、考えた私ですら違和感を感じてしまうのは欲が権利として認められてから久しく時間が経っているからだろう。忘れてはいけないのはいくら時間が流れようとも理不尽な欲は権利にはなり得ないということだ。その逆でいくら時間がかかろうと欲で片付けてはいけない権利もある。

日本がそうある必要性は全くないが、欧米と比べ血の歴史が短い。領土や法律、人など目に見えるものはたくさん得たし、失ったと思う。不思議なのは国内の意見対立で国民同士の血で血を洗う抗争が起きないまま、今までほとんどの人が生活できていることだ。民族性もあるとは思いますが素晴らしいと思う。平凡に生活することができている私たちは、目をそらさずに他国の血の歴史を知ることによってそれをまた延ばせると思う。

いうことに気づきました。その熱い思いが社員たちを自然とひきよせるんだと思いました。佃航平のどんな困難が立ち向かって、困難から逃げることなく、信念を持って立ち向かっていく姿にとっても感動しました。また、佃航平が口にした「俺はな、仕事っていうのは、二階建ての家みたいなもんだと思う。一階部分は、飯を食うためだ。必要な金を稼ぎ、生活していくために働く。だけど、それだけじゃあ窮屈だ。だから、仕事には夢がなきゃならないと思う。それが二階部分だ。」という言葉がとても印象に残っていて心に響いてきました。この佃航平のような人間がいたら、今の世の中や社会も少しは変わるのではないかと思いました。また、このような人間が大会社や政治を動かすことのできる人なんだと改めて思われました。自分も将来は、佃航平のように熱く、自然と周りをひきよせ、会社を引っ張っていけるような人間になりたいと思いました。

全体の感想としては、とても内容が難しい本だと思いました。この本は、主に中小企業の特許の事について書かれています。なので、専門的な用語や知らない言葉などがたくさん出てきて、難しかったです。しかし、その

ような難しい言葉も調べることで、理解することができ、将来のための勉強にもなってよかったです。

また、とても驚かされました。文章が始まって割とすぐに、取引先の京浜マイナリーという会社との取引が停止されるというピンチが訪れてしまいます。この取引の停止によって会社は十億円もの大損失をしてしまいました。序盤から会社にどんどんピンチが訪れるような本を今まで、読んだことがなかったので驚かされました。また、途中でライバル会社のナカジマ工業から訴えられてしまいます。明らかに佃製作所のミスはないのに訴えてくるなんてとても驚いたし、ナカジマ工業には本当に腹が立ちました。せっかくロケットを飛ばそうと夢に向かって、頑張っている佃航平とその邪魔をしないでほしいと思いました。

最後、佃製作所で作ったバルブが搭載されたロケットが完成しましたが、バルブがうまく作動せず、ロケットが発射できませんでした。またもや佃製作所にピンチが訪れてしまって僕は不安でした。このまま飛ぶことができないのかなと思いました。しかし、佃航平が異常をす

ぐに見事発見してくれたのでよかったです。最後の最後までハラハラドキドキさせられました。そして、最終的にロケットは無事上空に発射されました。このシーンはとても感動しました。佃航平とその従業員の夢が叶って本当によかったです。

この「下町ロケット」からたくさんのことを学びました。一つは、下町の町工場でも技術やプライドは、大企業にも引けを取らないものなんだということです。大企業でも中小企業それぞれが持っている思いの大きさや自社にかける思いは変わらないということを知りました。二つ目は、どんなピンチが立ちただかってもあきらめないことが夢の実現につながるということです。僕は、今勉強をするために学校へ通っています。それは、自分の技術者になるという将来の夢のためです。ここで勉強を頑張ることが夢の実現につながると思うのでこれからもあきらめずに頑張っていきたいです。

今回の読書感想文では以前より学ばされたことがたくさんありました。ここで学んだことをこれからの将来、学校生活の中で生かしていきたいです。

入学に際して保護者から

沼津高専保護者の方々、 よろしくお祈りします。

新生保護者（1年4組）平尾 栄子

『高専入学は、当初よりお父さんは猛反対でした。合格が決まっても入寮時の荷物運びに困り、懇意にしている醤油屋さんに頼んで配達用の車で手伝ってもらいました。お父さんは頑として動かなかったので、母親一人見送る形となったこと、まだ15歳の我が子を遠く離れた寮に置いていく寂しさで、涙があふれました。

お父さんの反対の原因は、突然に進学校を高専に変えたこと。同じ中学からの高専受験者は一人だけ。母親としては、息子のやりたいようにと賛成したのがかえってお父さんの気に障ったのでした。

入寮に際し、手伝ってくれた5年生の先輩は、髭ぼうぼうでちゃんちゃんこ姿。その上におっきら棒。後になって「ちゃんちゃんこ」先輩に誘われるまま柔道部へ入部したと聞いて、さらに驚きました。

当時は携帯電話などない時代ですから呼び出し電話だけが頼りでしたが、それさえも本人の「親からの電話で呼び出されるのが恥ずかしい」理由で、掛けることもなかったです。たまに掛かってくるコレクトコールが楽しみでした。楽しみといえば、年に一度、成績表を直接親に渡される時に、息子が喜ぶものをと手一杯の荷物を電車で運んだことも良い思い出です。

「ちゃんちゃんこ」先輩のおかげもあってか、柔道も2

段を取り、大手企業に就職もでき、私は今でも息子のしたい通りにさせて良かったと思っています。

「ぬまづ」と聞くと、41年前に入寮させたあの時の光景がよみがえります。』

この話は、あるお母様が息子さんを沼津高専へ送り出した時の気持ちを伺ったものです。

親というものは、子どものやりたいことを尊重したい、自主性を可能な限り手助けしたい。いつの時代でもそうですよね。また、進学校か高専かの選択について悩むのも今も昔も変わらないように思います。進学先の選択については、先生をはじめ周囲の理解が浅いこと、また適切なアドバイスが受けづらいことから、本人、保護者ともに頭を悩ませるケースも多いのではないかと思います。しかし、そのような状況であっても自分の意志で高専入学を選んだ、その気持ちは尊いものですし、親として誇らしく思えます。

とは言え、生活面での実質的な親離れが現実となると「頼れない寂しさ」に耐えがたさを感じるのが母親として正直なところではあります。

この寂しさを耐えた先には、子どもの成長が約束されている。きっと41年前だって親御さんたちは、寂しい思いをしながらも我が子の未来を信じて、子どもたちを送り出してきたことなのでしょう。

わたしたち、まだまだ沼津高専保護者としては新入りですが、県内、そして全国におられる保護者先輩方の仲間入りができたことを嬉しく思います。

入学して

新入生保護者（1年5組）鈴木 貴 康

入学して約1ヶ月、ゴールデンウィークに久しぶりに帰ってきた息子を見ると、中学時代とはひと味違った様子を感じられました。中学時代には、まだまだ甘いところがあり、頼っている面があり、入学に際しても不安な面も感じていたのですが、この1ヶ月という時間で、いろいろ本人にも大変なことはあり努力しただろうと想像できますが、それなりに対応してきて、自立しようとしている感じがうかがわれました。

寮生活では、今までとは違った思い通りに自由にならない生活で、リラックスする空間がなく戸惑いながらの生活だったと思います。他の同級生・先輩との共同生活の中で、気をつかうことも多いことでしょう。すぐに弱音を吐くかなと思っていましたが、家に連絡をとってくる様子もなく、頑張っている様子です。親としては、一人で寮生活することに不安を感じていますが、本人なりに自分で考え、洗濯や身なりの整理整頓をしながら学生生活をしていく経験は、まだ15歳ですが普通の高校生とは違った貴重な体験の一つで、これか

らの人生にとって人として大きく成長させることにつながることを考えます。

家に帰ってきた時、家族に自然に「ありがとう」という言葉を多く言うようになったと感じました。中学時代までの当たり前前の生活のありがたさに、親の世話のありがたさに、1ヶ月の寮生活で気づかせてもらったのだらうと感じます。それだけでも、寮生活は意味あるもので、一人の人間を大きく人として育ててくれるものなんだらうと感じています。

中学3年で、進路を決める際に沼津高専への進学を希望し、受験まで約10ヶ月間の長い間、目標に向かって受験勉強をし、念願の合格を勝ちとり入学した息子。一つ一つ自分の力で、自分の願いを実現していく姿に、頼もしさも感じますが、これからの5年間がもっと厳しい現実を目の当たりにすることもあるでしょう。そんな厳しい学生生活の中でも、充実した学生生活を送ることを祈るばかりです。

最後になりましたが、さまざまな夢をもって入学した学生に、学業・生活全般にわたり御指導いただく先生方には、本当に感謝の念がつきません。ありがとうございます。そして、これからも長い月日ではありますが、今後とも御指導を宜しくお願い致します。

事務部から

平成25年度 沼津高専1日体験入学のお知らせ

本年度も、中学生、保護者及び中学校の先生方に沼津高専をより深く知っていただくため、下記のとおり1日体験入学を実施します。

本校の1日体験入学は、アメリカのオープンハウスを参考に、中学生その他の参加者に、沼津高専を自分の目で見ていただき、進路決定において目的意識を持ち、本校への進学意思を固めていただくことを目的としました。毎年実施しているアンケート結果によると、参加生徒、保護者のほとんどが、進学したくなった、楽しかったと満足していただくことができ、当初の目的を達成することができました。

1日体験入学の内容は、各学科紹介、学生寮食事体験、学生会企画及びクラブ紹介、進学相談、学内施設紹介などです。保護者及び中学校の先生方に好評を得ております進学説明会は、午前2回、午後1回の計3回実施します。この1日体験入学によって、毎年多数の生徒が本校を知り、入学を志望、決意するものと思われま。本校在籍の学生及び保護者の皆さん、ぜひ出身中学校の恩師・後輩又は知人の方々を通じ本校体験入学への参加をお勧めくださるようお願いいたします。

なお、参加申込書は、静岡・山梨県の全中学校及び神奈川県の一部の中学校に送付され、申し込み期限は7月24日(水)となっていますが、お申し込みがなくても参加いただけます。

1日体験入学

1. 日 時 平成25年8月10日(土) 9:00～15:00
2. 場 所 沼津工業高等専門学校全域
3. 実施内容

(1)進学説明会 (2)進学相談コーナー (3)各学科・専攻科紹介 (4)学内施設紹介 (5)学生会企画及びクラブ紹介 (6)学生寮食事体験

4. 1日体験入学ホームページアドレス

http://www.numazu-ct.ac.jp/nct_hp_new/opencampus/taikennyugaku/index.html

平成25年度(8月~3月)行事予定表

平成25年

- 8月**
- 1日(休) 前期末試験(7日まで)
 - 8日(休) 終業式・大掃除・閉寮式
 - 9日(金) 夏季休業(9月13日まで)
 - 10日(土) 一日体験入学
 - 16日(金) 全国高専体育大会(9月1日まで)
 - 20日(火) 編入学試験
 - 23日(金) 専攻科前期終了
編入学試験合格発表
 - 30日(金) 編入学予定学生説明会
- 9月**
- 1日(日) 進学説明会(小田原市)
 - 13日(金) 寮生リーダー研修(15日まで)
 - 16日(月) 進学説明会(浜松市)
 - 17日(火) 授業再開
専攻科後期授業開始
 - 27日(金) 2年ミニ研究発表会
 - 30日(月) 後期授業開始
- 10月**
- 2日(火) 4年工場見学(4日まで)
 - 6日(日) 中学生のための体験授業
 - 20日(日) 東海北陸地区ロボコン大会
 - 22日(火) 体育祭・学生総会
進学説明会(中学校教員対象)
 - 24日(木) 2年特別研修
- 11月**
- 1日(金) 高専祭準備
 - 2日(土) 高専祭・ミニ体験授業(3日まで)
 - 4日(月) 高専祭片付け
 - 6日(水) 文化講演会
 - 9日(土) 東海北陸地区英語スピーチコンテスト(沼津)
 - 10日(日) 東海地区高専体育大会(ラグビー・フットボール)
 - 11日(月) 授業参観・学科説明会(15日まで)
 - 16日(土) 1・2年TOEIC Bridgeテスト
3・4年TOEIC IPテスト
 - 24日(日) ロボコン全国大会
 - 26日(火) 中間試験(12月2日まで)
- 12月**
- 2日(月) テクノフォーラム
 - 5日(木) 専攻科入学説明会(予定)
 - 11日(水) 3年課外教育特別講演
3年合宿研修説明会
 - 14日(土) 4年工学系数学統一試験
 - 20日(金) 終業式・大掃除・閉寮式
 - 23日(月) 留学生交流会(25日まで)
 - 24日(火) 冬季休業(1月3日まで)

平成26年

- 1月**
- 4日(土) 全国高専体育大会(ラグビー・フットボール)(9日まで)
 - 6日(月) 授業再開
 - 11日(土) 専攻科2年研究発表会
 - 14日(火) 3年到達度試験(数学・物理)
専攻科1年研究・学習発表会
 - 15日(水) 3年インターンシップ説明会
3年合宿研修説明会
 - 16日(木) 3年合宿研修(17日まで)
 - 21日(火) 専攻科後期試験(2月3日まで)
 - 26日(日) 推薦入試
- 2月**
- 3日(月) 春季合宿説明会
 - 6日(木) 学年末試験(13日まで)
 - 7日(金) 専攻科後期終了
 - 16日(日) 学力入試
 - 24日(月) 終業式・大掃除・閉寮式
5年卒業研究(27日まで)
入学者選抜合格発表
 - 25日(火) 臨時休業(3月19日まで)
 - 28日(金) 5年卒業研究発表(3月3日まで)
- 3月**
- 2日(日) 寮生リーダー研修(3月4日まで)
 - 3日(月) 専攻科臨時休業(19日まで)
 - 5日(水) 入学説明会
 - 7日(金) 5年卒業判定会議
 - 13日(木) 1~4年進級判定会議
 - 19日(水) 卒業式・修了式
 - 20日(木) 学年末休業(28日まで)

